

令和6年度

保健福祉学部附属診療センター

年報

目次

I 年度目標と実績

II 診療実績

III 教育実績

IV 研究業績

V 従事者名簿

令和6年度目標と実績のまとめ

目標

①医療機関としての安全管理体制整備

- ★安定的な体制維持のための診療機能の検討
- ★適切な業務体制の確立（センター長の補佐）と診療体制の整備（看護師の採用）
- ★感染症等の迅速な情報収集と対策の実施
- ★医療安全のための定期研修、定期点検の実施、安全対策の周知
- ★個人情報の適切な管理

②教育および研究のための体制の充実

- ★学生の学内実習・見学の実施
- ★学者研修受け入れ

③今後の役割と施設機能の方向性の検討

- ★業務内容の透明化
- ★備品の計画的な更新
- ★広島県地域リハビリテーションサポートセンターとしての地域貢献
- ★積極的な附属診療センターの広報

実績

①医療機関としての安全管理体制整備

◆診療実績

初診患者(48名)、のべ患者数(1,921件)、リハビリテーション(1,050件)

◆診療センター規定の改正

◆診療センター長補佐の設置、看護師の新規採用

◆新型コロナウイルス感染症対応（感染予防と診療機能維持の併行）

・感染症対策として、検温、消毒、問診の徹底、他者との接触の回避、電話診療の実施

◆安全対策のための研修会等の実施

・転倒予防対策、ヒヤリハット事例への対応

・診療用放射線の安全利用研修の実施

・医療安全研修会の実施

「医療安全の現状と展望(7月24日)」

愛媛大学医学部附属病院 医療安全管理部 副部長 大下宗亮先生

「医療従事者の腰痛予防に関する制度と対策(12月11日)」

県立広島大学保健福祉学部 保健福祉学科 理学療法学コース 助教 大古場良太先生

◆コソコソ健康増進号の診療センター備品化と利用促進（出勤回数:33回 測定人数:延べ1253名）

②教育および研究のための体制の充実

◆コミュニケーション障害学コース・作業療法学コース・理学療法学コース臨床実習施設としての教育実績

学内実習(191名)、学内者見学(283名)、学者者見学(32名)

③今後の役割と施設機能の方向性の検討

◆備品の計画的な整備・更新（知能検査用具、感覚統合器具等）

◆広島県地域リハビリテーションサポートセンター指定施設（平成30年1月1日より継続中）

住民運営の通いの場への人材派遣 13回

◆附属診療センターの広報（本年度はWEB配信にて実施）

感染流行下での業務体制のお知らせ、オープンキャンパス等の実施

公開講座の実施

・「メディカルスタッフってどんな仕事？」(令和6年5月18日)

田口亜紀、土路生明美、大古場良太、助川文子、小島理恵子、永野なおみ

・「あなたもすぐにわかる・できる！のどのアンチエイジング」(令和6年11月16日)

耳鼻咽喉科 田口亜紀

◆年報の作成と公表

来年度計画

①医療機関としての安全管理体制整備

- ★確実な診療体制の構築
- ★医療安全のための定期点検・安全対策の周知
- ★感染症等の迅速な情報収集と対策の実施
- ★個人情報の適切な管理
- ★健全な経営・コスト意識の浸透

②教育および研究のための体制の充実

- ★学生の学内実習・見学の積極的な実施
- ★学者者の研修の積極的な受け入れ

③今後の役割と施設機能の方向性の検討

- ★業務内容の透明化
- ★備品の計画的な更新
- ★広島県地域リハビリテーションサポートセンターとしての地域貢献
- ★附属診療センターの広報の拡大（地域住民向け公開講座等）

令和6年度統計

①地域別

地域	初診	再診	実人数	のべ人数
広島県	45	309	354	1874
県外	3	7	10	47
合計	48	316	364	1,921

②年齢別

年齢	初診	再診	実人数
3歳未満	3	4	7
3歳～6歳	9	9	18
小学生	3	76	79
中学生	1	53	54
16歳～20歳	1	55	56
21歳～30歳	2	20	22
31歳～40歳	5	8	13
41歳～50歳	2	8	10
51歳～60歳	2	18	20
61歳～70歳	2	21	23
71歳～80歳	8	31	39
81歳～90歳	10	11	21
91歳以上	0	2	2
合計	48	316	364

③初診患者の主診断名

診断名	人数
発声障害	6
声帯結節・萎縮	3
構音障害	5
吃音	4
先天性難聴	5
難聴	17
言語発達遅延	2
その他の小児神経疾患	2
脳血管障害	1
骨粗鬆症	2
その他	1

Ⅲ 教育実績

【授業・見学】

科目名	学年	人数	期間	回数	内容
神経理学療法 小児理学療法 (理学療法学コース)	3	1	10月～2月	14	基礎臨床実習Ⅱを控えた学生の準備学習として、神経系理学療法や小児理学療法の評価や理学療法介入場面などの臨床見学を実施した。
科学と医学 (理学療法学コース・作業療法学コース・コミュニケーション障害学コース・人間福祉学コース)	1	104	6～7月	2	診療センター内の見学とセンター業務の紹介 (理学・作業・コミュ1年生必須、福祉1年生選択)
認知系障害学概論Ⅱ (コミュニケーション障害学コース)	2	30	2Q	1	コミュニケーション障害学コースの2年次生を対象とし、実際の症例への言語聴覚療法の実施動画を視聴しながら、失語症例の症状や特徴を学習した。
発達系障害学演習Ⅰ (コミュニケーション障害学コース)	2	30	3Q	8	コミュニケーション障害学コース2年必修科目の演習において、新版K式発達検査、田中ビネー検査、STRAW-R、Rey複雑図形検査、WAVESの諸検査の演習にあたり、診療センター患者の検査データを改変して演習を行った。
発達系障害学演習Ⅱ (コミュニケーション障害学コース)	3	28	1Q	7	コミュニケーション障害学コース3年必修科目の演習において、K-ABC2の検査演習および、限局性学習症事例の評価演習のために診療センター患者の検査データを改変して演習を行った。
発達系障害学演習Ⅲ (コミュニケーション障害学コース)	3	28	2Q	5	コミュニケーション障害学コース3年必修科目の演習の臨床推論事例、学習障害の支援演習の事例を診療センター患者の検査データを改変して演習を行った。
発達系障害学演習Ⅳ (コミュニケーション障害学コース)	3	28	4Q	4	コミュニケーション障害学コース3年必修科目の演習において、診療センター患者を元にして作成された事例資料を使って演習を行った。(知的障害・自閉症併存事例、小児高次脳機能障害事例、軽度知的障害事例)
認知系障害学概論Ⅰ (コミュニケーション障害学コース)	2	30	1Q	8	失語症のある患者さんと言語聴覚士のコミュニケーション場面の映像を、ご本人・ご家族のご協力のもと授業で活用した。
認知系障害学概論Ⅱ] (コミュニケーション障害学コース)	2	28	2Q	2	言語障害者に対するスクリーニング場面の理解のため、失語症などの言語障害のある患者さんの検査場面などの映像を、ご本人・ご家族のご協力のもと教材として活用した。
認知系障害学演Ⅰ (診断) (コミュニケーション障害学コース)	2	28	3Q	6	失語症のある患者さんに対する、標準失語症検査などの実施場面を、ご本人・ご家族のご協力のもと教材として活用した。
認知系障害学演習Ⅱ (評価) (コミュニケーション障害学コース)	3	29	1Q	2	失語症のある患者さんに対する、重度失語検査の実施場面をご本人・ご家族のご協力のもと教材として活用した。また、検査結果(CADL,WAB)をデフェルメして、教材として使用した。
認知系障害学演Ⅳ (総合・地域) (コミュニケーション障害学コース)	3	26	4Q	4	各担当教員が、診療センターで言語聴覚療法を担当する失語症などの(デフォルメした)データに基づき、個別訓練や集団訓練計画を立案・デモンストレーションを実施した。その後、実際の訓練場面をご本人・ご家族のご協力のもと提示した。

Ⅲ 教育実績

【授業・見学】

科目名	学年	人数	期間	回数	内容
コミュニケーション障害学演習 (コミュニケーション障害学コース)	1	31	2Q～4Q	1	附属診療センターを利用する失語症などがある方の中で、ご協力いただける方を対象に、学生との交流会を企画・実施した。その準備としても、訓練場面などをご本人・ご家族のご協力のもと活用した。
コミュニケーション障害学診断法 (コミュニケーション障害学コース)	2	28	3Q～Q4	45	ビデオで提示する仮想事例(成人・小児)について、本診療センター内施設を利用して作成した。
ケアマネジメント (コミュニケーション障害学コース)	2	17	1Q	1	多職種(コミュニケーション学コース以外)の学生が、失語症などの理解を深めるために、ご本人・ご家族のご協力のもと教員(言語聴覚士)との会話場면을教材として活用した。
拡大・代替コミュニケーション特論 (コミュニケーション障害学コース)	4	30	1Q	3	発語以外の拡大・代替コミュニケーション手段を使用している、言語聴覚療法場面をご本人・ご家族のご協力のもと活用した。
医療ソーシャルワーク (人間福祉学コース)	2	19	令和6年11月	1	見学(福祉2年選択科目)
医療ソーシャルワーク (人間福祉学コース)	2	20	令和6年12月	1	見学(福祉2年選択科目)

【実習】

科目名	学年	人数	期間	回数	内容
基礎臨床実習1 (作業療法学コース)	1	30	1月	1	6名程度のグループに分かれ、附属診療センター役割を学び、施設見学を実施した。
臨床実習Ⅰ (コミュニケーション障害学コース)	2	31	通年	24	学生2-3名が1組になり、言語聴覚療法の見学を1組あたり年間3回実施した。(対面またはオンライン)
臨床実習Ⅰ (コミュニケーション障害学コース)	2	31	通年	2	プレ実習として、言語聴覚障害を有する事例の協力のもと、評価・訓練場面の動画を学生に提示しながら診療の流れを学習した。
臨床実習Ⅱ (コミュニケーション障害学コース)	3	27	通年	96	言語聴覚障害のある患者さんに協力いただき、言語聴覚療法についての評価・計画立案・言語聴覚療法実施・報告書作成などを内容とする実習を、学生1人につき年間8回(ケースカンファレンス2回)実施した。 (対面またはオンラインで実施)
臨床実習Ⅲ (コミュニケーション障害学コース)	4	26	通年	11	神経内科外来診察(原田医師)に、学生が1-3名ずつ同席し、見学実習を行った。
臨床実習Ⅲ (コミュニケーション障害学コース)	4	26	通年	9	小児科外来診察(林医師)に、学生が1-3名ずつ同席し、見学実習を行った。
臨床実習Ⅲ (コミュニケーション障害学コース)	4	26	通年	13	耳鼻咽喉科診察(田口医師)に、学生が1-2名ずつ同席し、見学実習を行った。
臨床実習Ⅱ (コミュニケーション障害学科) 補充分	3	1	4Q	4	体調不良のため学外実習を欠席した学生に対して、附属診療センター通院中の方のご協力のもと補充としての見学実習を実施した。

【卒業研究】

卒業論文タイトル
音声ゲームを用いた音声訓練の検討(コミュニケーション障害学コース)
伸縮歪センサー(B4STM)の信頼性と妥当性の検討(コミュニケーション障害学コース)
伸縮歪センサー(B4STM)を用いた食形態による嚥下動態の検討(コミュニケーション障害学コース)
楽譜を読むことが難しい脳性麻痺がある子どもとの協働 ～アクションリサーチによる楽譜の制作～(作業療法学コース)
運動障害性構音障害のある人が「話しやすい」と感じる相手の対応 ー当事者間の相違に関する事例検討ー (コミュニケーション障害学コース)
運動障害性構音障害のある人が「話しやすい」と感じる相手の対応 ー当事者間の相違に関する事例検討ー (コミュニケーション障害学コース)
実用コミュニケーション能力検査(CADL検査)の改訂に向けて ー生活様式との適合および簡易化の視点からー (コミュニケーション障害学コース)

【著書】

タイトル	著者名	担当範囲	出版社	出版年月日
今日の臨床サポート「構音障害 (第4版)」	今川記恵	分担執筆	エルゼビア・ジャパン	令和6年3月
言語の認知神経心理学 Chapter 2. 4. 文と動詞の認知神経心理学	渡辺 眞澄 日本高次脳機能学 会 教育・研修委員 会 (編)	分担執筆	新興医学出版社	令和7年1月
種村, 純, 種村, 留美(編), 高次脳 機能障害リハビリテーションの掟 2章. 失語症 6. 言語知識に関す るセラピー(意味・音韻・構文)	津田哲也	分担執筆	中外医学社	令和7年1月

Ⅳ 研究業績

【論文】

論文名	雑誌名, 巻号頁	著者名	発表年月日
Evaluating the impact of a darts game intervenetion on cognitive function in older adults with and without mild cognitive impairment: a pilot study.	Frontiers in Rehabilitation Sciences 5: 1327494, p1-p9, doi:10.3389/fresc.2024.1327494	Kawabata N, Iida T, Kunishige M, Fukuda H, Miyaguchi H, <u>Harada T</u>	令和6年2月
保健福祉学部学生による児童館でのボランティア活動実践報告	人間と科学: 県立広島大学保健福祉学部誌, 24 巻, 1 号, 45-52	渡辺陽子, 高木雅之, <u>田口亜紀</u> , 吉田倫子, 青井聡美, <u>織田靖史</u> , <u>飯田忠行</u>	令和6年3月
プレイバックシアターによる実習の振り返り	人間と科学: 県立広島大学保健福祉学部誌, 24 巻, 1 号, 116-116	古山千佳子, 吉川ひろみ, 高木雅之, <u>織田靖史</u>	令和6年3月
A Study on Vocal Attack During Voice Therapy Exercises Using Photoglottography.	J Voice.2024 Apr 5:S0892-1997(24)00087-0.doi:10.1016/j.jvoice.2024.03.017.Online hhead of print.	<u>Taguchi A</u> , Hyodo N, Shiromoto O	令和6年4月
オンラインでのGroup Voice Therapyの試み	音声言語医学,65(2):88-93	<u>田口亜紀</u> ,西岡未央, 長谷川久美世	令和6年4月
Human values assessment toward AI-based patient state prediction	Proceedings of the 11th International Conference on Human Interaction & Emerging Technologies (IHiet-AI 2024): Artificial Intelligence and Future Applications 120:482-490	Masayuki Ihara, Hiroko Tokunaga, Hiroki Murakami, Shinpei Saruwatari, Akihiko Koga, Takashi Yukihira, <u>Shinya Hisano</u> , Kazuki Takeshita, Ryoichi Maeda, Masashige Motoe	令和6年4月
Extraction of the pull force from inertial sensors during the pull test for Parkinson's disease: A reliability study.	Journal of Movement Disorders 17(2): 150-157	Taniuchi R, Kanai S, Hara A, Monden K, Nagatani H, Torii T, <u>Harada T</u>	令和6年4月
幼児期前期の母子間の相互的なふれあい遊びがアタッチメントに及ぼす影響の探索的研究	作業療法43(2)185-193	畠山久司, <u>助川文子</u> , 山西葉子, 高島紀美子, 伊藤祐子	令和6年4月
子どもの支援や教育に携わる人が感覚統合理論を学ぶことによって受ける影響についての質的研究	感覚統合研究, 22 巻, 25-35	村越雄二, 山西葉子, <u>織田靖史</u> , 高木雅之, 永吉美香, 太田篤志	令和6年5月
予測可能な姿勢外乱により誘発される脳電位に対する認知課題付加の影響	理学療法の臨床と研究 34(1) 39-43	本田佳映, 松浦晃宏, <u>森太志</u>	令和6年7月

Ⅳ 研究業績

【論文】

論文名	雑誌名, 巻号頁	著者名	発表年月日
Generic and Hearing-Specific Quality of Life in Older Adult Cochlear Implant Users	Cureus16(8)e66042,1-12	<u>Norie Imagawa</u> , Masaomi Motegi, Yuiko Kondo, Takashi Shimazaki, Takashi Yamauchi, Machi Suka	令和6年8月
気導聴力閾値25dB以内のオーゾグラムの気骨導差について	OtologyJapan34(3) 151-157	小泉 舜, 宇野 香穂理, <u>今川 記恵</u> , 平林 源希, 山本 裕, 小島 博己	令和6年9月
Association between heart failure in asymptomatic stages and skeletal muscle function assessed by ultrasonography in community-dwelling older adults.	BMC geriatrics 24(1) 871-871	Toshimi Sato, Yosuke Kimura, Tomohiro Kakehi, Mizue Suzuki, Ikue Kondo, Yuki Abe, Daisuke Suzuki, Wataru Sato, <u>Norie Imagawa</u> , Atsunori Itagaki	令和6年10月
伸縮ひずみセンサーを用いた発声時における喉頭挙上の検討	音声言語医学 65(4),239-244	<u>田口垂紀</u> , 佐原由真, 裊地紗菜	令和6年10月
【加齢性声帯萎縮症治療法の最前線】加齢性声帯萎縮症の音声リハビリテーション	Precision Medicine,2024,10月号	田口垂紀	令和6年10月
保守的組織文化の介護現場と共存可能な共創デザイン	人間中心設計20(2): 43-53	井原雅行,徳永弘子,村上宏樹,猿渡進平,竹下一樹,古賀昭彦,行平崇, <u>久野真矢</u> ,本江正茂	令和6年10月
多面的な自己開示分析にもとづく利用者共感一介護サービス開発におけるナラティブ分析事例一	人間中心設計20(2): 54-62	徳永弘子,井原雅行,村上宏樹,古賀昭彦,行平崇,前田亮一,猿渡進平,竹下一樹, <u>久野真矢</u> ,本江正茂	令和6年10月
Neurophysiological markers of early cognitive decline in older adults: a mini-review of electroencephalography studies for precursors of dementia	Frontiers in Aging Neuroscience, 148648116	<u>Tanaka M</u> , Yamada E, Mori F.	令和6年10月
Development of an assesment tool to measure the quality of life goal setting for cancer survivors: A content validity study.	Cureus 16(10): e71272. doi: 10.7759/cureus.71272 . eCollection 2024 Oct.	<u>Ikeuchi K</u> , <u>Nishida S</u> , Karikawa M, <u>Sakamoto C</u> , <u>Mori F</u> , <u>Tanaka M</u>	令和6年10月
【外来ではじめよう! 音声・発話・嚥下のトレーニング】私はこうしている 外来におけるトレーニング 高齢者の発声・発話機能のトレーニング	JOHNS(0910-6820)40 巻11号 Page1382-1386	田口垂紀	令和6年11月

Ⅳ 研究業績

【論文】

論文名	雑誌名, 巻号頁	著者名	発表年月日
パネルディスカッション: 心身相関の治療を チームで担う心理職を開拓する！	心身医学 64(6): 526	細谷紀江, 原田俊英	令和6年11月
自殺	臨床作業療法nova21 (4), 86-90	織田靖史, 林良太岸雪 枝, <u>今元佑輔</u>	令和6年12月
How the brain differentiates human and monkey faces: Neuromagnetic evidence from spatiotemporal dynamics	Neurosciece, 565	Yamada E, Takeda A, Nakazono H, <u>Tanaka M</u> , Ogata K, Tobimatsu S.	令和7年1月

【学会発表・講演】

注)学会発表は口演・ポスター発表を含みます。

タイトル	講演者名	会議名	開催年月日
メディカルスタッフってどんな仕事？	田口亜紀,土路生明美,大古場良太,助川文子,小島理恵子,永野なおみ	令和6年度公開講座	令和6年5月
CADL改訂に向けたパイロットスタディ	山根奈々,段林のどか,坊岡峰子	第25回日本言語聴覚学会	令和6年6月
失語症者のAAC活用に向けた支援方法とその効果	坊岡峰子,段林のどか,山根奈々	第25回日本言語聴覚学会	令和6年6月
健常加齢による意味属性産生課題への影響	津田哲也, 上村麻夢	第25回日本言語聴覚学会	令和6年6月
非言語性意味記憶検査の健常邦人への適応に関する検討	津田哲也, 島宗愛奈	第50回 日本コミュニケーション障害学会学術講演会	令和6年6月
運動障害性構音障害のある人が「話しやすい」と感じる相手の対応	中川 瑞季, 中村文, 小澤 由嗣	第25回日本言語聴覚学会	令和6年6月 21日-22日
活動の質評価法(Assessment of Quality of Activities; A-QOA)の教育効果 事例を通じた活動の質と感情的well-beingの変化	坂本 千晶, 小川 真寛, 西田 征治, 白井 はる奈	第25回日本認知症ケア学会大会	令和6年6月
ホントはホットコーヒー ～AACから見える失語症の世界～	坊岡峰子	第29回 Coco-on LIVEトーク！	令和6年7月
発達障害児・者の正しい理解と支援	細川 淳嗣	令和6年度三原市発達障害者支援コーディネーター研修会	令和6年7月
GIGAスクール時代における読み書きに困難を抱える児童・生徒への学習支援	細川 淳嗣	令和6年度県立広島大学公開講座	令和6年8月
ロボットとの交流が幼児の社会交流に与える影響	増田久美子,助川文子	令和5年度重点研究事業成果発表会	令和6年8月
知って得する認知症予防について	原田俊英	三原市認知症講演会	令和6年9月
高齢者に生じるコミュニケーション障害の理解とその支援～言語聴覚士の視点から～	坊岡峰子	東広島介護支援専門員連絡協議会井戸端会議(研修会)	令和6年9月
Voice gameを用いた音声訓練効果の検討	田口亜紀,阿部百花	第69回日本音声言語医学会総会・学術講演会	令和6年10月

【学会発表・講演】

注)学会発表は口演・ポスター発表を含みます。

タイトル	講演者名	会議名	開催年月日
日常で使えるマインドフルネス ～ストレスとの付き合い方を実践から学ぶ～	織田靖史	令和6年度 広島県庁 メンタルヘルスセミナー(ストレス対処セミナー)	令和6年10月
60歳以上の高齢人工内耳装用者における費用対効果評価	今川記恵	第69回日本聴覚医学会総会・学術講演会	令和6年10月
老年期うつ病の理解と関わり	織田靖史	香川県作業療法士会 研修会	令和6年11月
メンタルヘルスにおける作業の力 ～結果ではなくプロセスの視点から作業を再考する～	織田靖史	公益社団法人 日本精神科病院協会／日本精神科医学会 主催・令和6年度 学術教育研修会「作業療法士部門」	令和6年11月
ペットロボットとの口臭が人の健康に与える影響	助川文子	第8回アジア太平洋作業療法学会	令和6年11月
感覚処理障害を持つ子供のための革新的作業療法:感覚にやさしい経験の紹介	伊藤祐子, Roger I Ideishi, 山西葉子, 助川文子	第8回アジア太平洋作業療法学会	令和6年11月
自閉スペクトラム症のある人とその家族そして作業療法士への「短い質問」調査	助川文子	第58回日本作業療法学会	令和6年11月
あなたにもすぐにわかる・できるーのどのアンチエイジングー	田口亜紀	令和6年度公開講座	令和6年11月
Professional identity, self-education ability, and task-values in occupational therapy students: A survey report	Shohei Kakimoto, <u>Shinya Hisano</u>	The 8th Asia Pacific Occupational Therapy Congress 2024 (APOTC 2024)	令和6年11月
Development of an Activity Care Matrix Corresponding to Cognitive Level : Examination of Content Validity Using the Delphi Method	<u>Shinya Hisano</u>	The 8th Asia Pacific Occupational Therapy Congress 2024 (APOTC 2024)	令和6年11月
An exploratory study of elderly facility residents' conception of "home"	Kazuki Ogaki, Ayaka Ogaki, Hiroshi Iwane, <u>Shinya Hisano</u>	The 8th Asia Pacific Occupational Therapy Congress 2024 (APOTC 2024)	令和6年11月
作業療法学生の時間管理と主観的ウェルビーイングの関連	古田翔太, <u>久野真矢</u>	第18回島根県作業療法学会	令和6年11月
Exploring the impact of occupational participation in hobby activities on social frailty: Insights from a logistic regression analysis	<u>Tanaka M</u> , Takagi M.	The 8th Asian Pasific Occupational Therapy Congress 2024	令和6年11月

【学会発表・講演】

注)学会発表は口演・ポスター発表を含みます。

タイトル	講演者名	会議名	開催年月日
Effectiveness of a Stress Care Program Using the “Listening Hour” Method in Reducing Anxiety of Occupational Therapy Students Exposed to Pre-Practicum Stress	<u>Yasushi Orita</u> , Chika Shiraishi, Yusuke Imamoto, Hiromi Yoshikawa	The 8th Asia Pacific Occupational Therapy Congress	令和6年11月
芸術的要素を用いた作業種目によるストレスケアプログラムの効果について —シングルシステムデザインを用いて—	織田靖史,丹代和希,浦谷茜,白石千翔, <u>今元佑輔</u>	第58回日本作業療法学会	令和6年11月
Can the Assessment of Quality of Activities Measure Emotional Wellbeing in People with Dementia? – A Case Study–	<u>Chiaki Sakamoto</u> , <u>Seiji Nishida</u> , Masahiro Ogawa, Haruna Shirai	8th Asia Pacific Occupational Therapy Congress 2024: APOTC2024	令和6年11月
Impact of interactions with pet robots on university students living alone.	<u>増田久美子</u> , <u>助川文子</u>	The 8th Asia Pacific Occupational Therapy Congress 2024 (第8回アジア太平洋作業療法学会)	令和6年11月
Ipsilateral primary motor cortex activation after repetitive unilateral upper and lower limb motor tasks	Tanigawa T, <u>Mori E</u>	8th Asia Pacific Occupational Therapy Congress 2024	令和6年11月
一側肢の反復運動が同側大脳半球運動野の活動性に与える影響	谷川孝, <u>森大志</u>	第58回日本作業療法学会	令和6年11月
マインドフルネス入門	織田靖史	愛媛マインドフルネスを学ぶ会	令和6年11月 令和7年2月
日本耳鼻咽喉科学会・日本リハビリテーション医学会合同シンポジウム: 音声障害のリハビリテーション	田口亜紀	第38回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会秋季大会	令和6年12月
認知機能に応じた目標設定とアプローチ	久野真矢	大分県作業療法士会 令和6年度認知症作業療法実践研修Ⅲ	令和6年12月
感覚統合療法の演習経験による作業療法学生の感覚処理システムの認知の変化	<u>増田久美子</u> , <u>助川文子</u>	第41回 日本感覚統合学会研究大会	令和6年12月
デージー教科書導入促進のための工夫と導入後の展望	細川 淳嗣	公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会主催 令和6年度 音声教材の効率的な製作方法等に関する調査研究事業 「デージー教科書事例報告会」	令和7年2月
伸縮ひずみセンサーB4S™を用いた嚥下動態の検討	<u>田口亜紀</u> 上野詩織 西川幸穂	第37回日本喉頭科学会総会・学術講演会	令和7年3月

【外部資金】

タイトル	代表研究者名	制度名	研究期間
失語症・認知症者でも実施可能な語彙・意味的知識構造に焦点を当てた評価法の開発	津田 哲也	科学研究費補助金 (若手研究)	平成30～令和6年度
動詞活用規則のエニグマ-多すぎる規則は使われない	渡辺 眞澄	科学研究費補助金 (基盤研究C)	令和2～令和6年度
失語症者の実用的コミュニケーション能力に着目した支援プログラムの開発と活用	坊岡 峰子	科学研究費助成金 (基盤C)	令和3～令和6年度
経頭蓋磁気刺激と脳波周波数解析によるコグニティブ・フレイルティの神経基盤の解明	田中睦英	科学研究費補助金 (基盤研究C)	令和4～令和6年度
肢運動に伴う皮質運動領野の活動性増強メカニズムの検証	森大志	科学研究費補助金 (基盤研究C)	令和4～令和7年度
認知症患者に効果的な早期退院支援プログラムの開発に向けた実践的研究	坂本千晶	科学研究費補助金 (基盤研究C)	令和4～令和7年度
当事者参加型研究 自閉スペクトラム症作業療法「一般向けガイドライン解説」の作成	助川文子	科学研究費補助金 (基盤C)	令和5～令和7年度
伝わりにくさ≠話しづらさ(発話障害)―当事者にとってのコミュニケーション障害―	中村文	科学研究費基金 (基盤研究 C)	令和5～令和7年度
意味記憶障害の有無や重症度を定量的に評価する新たな診断モデルの開発	津田 哲也	科学研究費補助金 (基盤C)	令和5～令和10年度
発声障害における音声治療法の確立	田口亜紀	科学研究費助成金(基盤研究C)	令和6～令和8年度
高齢者に特化した人工内耳手術意思決定支援ツールの開発	今川記恵	科学研究費助成事業 (基盤研究C)	令和6～令和10年度

V 従事者名簿

医師

小児科	林 優子
内科	安武 繁
精神科	藤巻康一郎
耳鼻咽喉科	田口亜紀
神経内科	原田俊英
整形外科	住居広士
脳神経外科	森 大志

看護師

看護師	土路生明美
	鴨下加代
看護師（専任）	大亀昭子
	曾我歩美
医療事務受付	田坂春美
	村田智子

医療福祉職

看護師	土路生明美
	鴨下加代
理学療法士	金井秀作
	田中聡
	小野武也
	島谷康司
	長谷川正哉
	梅井凡子
	西上智彦
	積山和加子
	金指美帆
	岡村和典
	佐藤勇太
	大古場良太
作業療法士	吉川ひろみ
	久野真矢
	西田征治
	古山千佳子
	高木雅之
	助川文子
	田中睦英
	織田靖史
	坂本千晶
	池内克馬
	増田久美子
	今元佑輔
言語聴覚士	堀江真由美
	坊岡峰子
	細川淳嗣
	小澤由嗣
	長谷川純
	矢守麻奈
	佐藤紀代子
	渡辺真澄
	津田哲也
	中村 文
	小島理恵子
	今川記恵
放射線技師	飯田忠行
社会福祉士	永野なおみ